

平成 29 年 6 月 28 日現在

機関番号：17102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26630270

研究課題名（和文）20世紀初頭のパリ・大阪郊外における拡張計画に関する比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study on the Extension Plan in Suburban area in Paris and Osaka in the Debut of the 20th Century

研究代表者

江口 久美 (Eguchi, Kumi)

九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・助教

研究者番号：30720221

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：平成26年度は、郊外計画理念研究を進めた。ルイ・ボニエと関一による郊外計画についての都市理念を明らかにした。平成27年度は、地域計画研究を行った。郊外計画の対象となったイル＝ド＝フランス地域圏の7県の内ボニエが詳細なコミューヌごとの計画を作成した111コミューヌ及び大阪の5区について、具体的な地域計画を明らかにした。平成28年度は、パリ及び大阪の郊外計画における物的住環境に関する思想の分析及び具体的環境に関する文献調査を行った。

研究成果の概要（英文）：In 2014, we advanced the study about the idea of suburban area plan by Louis Bonnier and Hajime Seki. In 2015, we clarified the concrete area plan about 111 communes in Ile-de-France region, which Bonnier made precise plan for each commune, and about 5 wards in Osaka. In 2016, we analyzed the ideas about spatial residential environment and collected texts about them.

研究分野：都市工学

キーワード：郊外計画 ルイ・ボニエ 関一

1. 研究開始当初の背景

近年、地域性を喪失した非良好な郊外のあり方が日仏両国で問題となっている。こうした郊外は、日本では高度経済成長期以降の無秩序なスプロール型開発によって、フランスでは 1960 年代以降の郊外への無機質なパークと呼ばれる移民向けの大型の社会住宅(HLM)の大量建設によって形成された。一方、両国において 20 世紀初頭には、理念のもと地域性を踏まえた郊外計画が存在していた。現在人口減少及び都市縮小の時代を迎えた我が国において、スプロールした郊外をいかに適切なサイズに縮小すべきかを検討しなければいけない。その際に、改めて良好な住環境としての郊外を再考することで、あるべき姿を明らかにすることができる。と考える。

既往研究について、ルイ・ボニエ(Louis BONNIER)の都市保全に関する活動に関しては、江口(2011)による一連の研究及び BASSIERES(2009)以外は存在しない。更に、パリ市拡張計画における活動に関しては現在までほとんど明らかになっていない。大大阪に関しては、主要なものとして 1980 年代以降の中佐や芝村による一連の研究が存在するが、主に中心部についての関一の不良住宅改良などの各政策または大きな都市理念についてのみが明らかにされている。

2. 研究の目的

本研究は、20 世紀初頭のパリ市の拡張計画及び大阪市第二次拡張計画である大大阪計画について概観し、各都市の都市保全や田園都市を念頭におき地域性を生かした良好な住環境形成という都市理念による郊外計画のあり方についての比較分析を行うことで、都市縮小の時代の迎えた現代の日本における郊外のあり方についての示唆を得ることを目的とする。現在の日本は、今後人口の大幅な減少が予測され、都市縮小の時代を迎えている。

本研究では、ほぼ同時期に同等のスケールの人口規模で都市拡大時代を迎えた日本とフランスの都市、大阪とパリを歴史的に比較研究し、郊外開発の必要性に両都市がどのような計画と理念を持ち、対処したのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、郊外計画理念研究+ 地域計画研究+ 計画評価・比較分析の 3 段階からなる基幹的方法を、二都市に用いる。研究代表者と研究協力者の二人体制での遂行を想定しており、各段階は、それぞれ研究期間を 1 年間と設定する。

ボニエと関による都市理念を既往研究も踏まえて概観した上で、郊外に対しての

保全・田園都市・住宅理念を明らかにする。

の成果を踏まえて、実際に各コミュニティ及び各区で展開された具体的な地域計画について明らかにする。その際に、パリでは保全、大阪では田園都市の理念の展開について着目する。

実際に実行された計画について実現された物的環境を明らかにし、その実現性を評価・比較分析する。必要があれば、実現されなかった場合の財政的・行政的要因について考察する。この方法を、海外拠点との連携において推進・展開する。

4. 研究成果

平成 26 年度は、都市において郊外計画理念研究を進めた。

時代背景や行政や拡張委員会の組織変遷を踏まえながら、ボニエと関による郊外計画についての都市理念を明らかにした。まずは、ボニエと関による中心市街地を含む都市理念一般について、既往研究資料を集め、整理し概括した。その後、郊外地域に対する保全・田園都市・住宅に関する理念を整理するため、8 月までは大阪府立図書館、大阪市公文書館等、行政の一次資料を所蔵したアーカイブ等において、私蔵資料や雑誌「大大阪」関連資料を対象に資料収集を行った。そして、関一文書など、一次資料や既往研究を含む文献資料収集調査を行った。

9 月にパリにおいてパリ市アーカイブセンターやパリ・アーカイブ、古きパリ委員会アーカイブなどで文献資料収集の調査を行った。10 月以降は収集した資料を整理・分析し、関とボニエの中心市街地と郊外を含む一般的な都市計画理念と郊外に対する計画理念を明らかにした。その際に、一次資料である手記や論文などを精査し、なぜそのような理念に至ったのかを、影響元も踏まえて具体的に明らかにした。

平成 27 年度は、地域計画研究を行った。

郊外計画理念研究を受け、郊外計画の対象となったイル＝ド＝フランス地域圏の 7 県(セーヌ＝エ＝マルヌ、イヴリーヌ、エソンヌ、オー＝ド＝セーヌ、セーヌ＝サン＝ドニ、ヴァル＝ド＝マルヌ、ヴァル＝ドワズ)の内ボニエが詳細なコミュニティごとの計画を作成した 111 コミュニティ及び大阪の 5 区(西淀川区、東淀川区、東成区、住吉区、西成区)について、具体的な地域計画を明らかにした。フランスについては、CVP 議事録やアーカイブの資料から、ボニエにより 1916 年から作成された遺産保全のための考古学的・芸術学的目録(CAA)を踏まえて、1919 年から 1934 年に計画した各コミュニティ毎の地域計画を明らかにした。大阪については、大阪府公文書館一次資料などから、各区における具体的

な地域計画を明らかにした。その際に、行政組織内における議論内容とその変遷、計画と実施内容の相違などに着目し、計画された物的住環境を精緻に読み解いた。

平成 28 年度は先の 2 年間の研究を踏まえて、パリ及び大阪の郊外計画における物的住環境に関する思想の分析及び具体的環境に関する文献調査を行った。

郊外計画理念研究及び地域計画研究を踏まえながら、実際に実現された住環境について明らかにすることを目的として調査を行った。パリの郊外計画については、海外調査としては 2016 年 8 月から 9 月にパリの建築・遺産シテアーカイブにおいてルイ・ボニエ文庫所蔵の一連の関連資料を収集した。大阪の郊外計画については、大阪府公文書館などの文献資料や都市計画図面、写真資料などを収集した。その際に、パリではパリ市建築家ルイ・ボニエによる都市保全を意識した視点及び、大阪では関一田園都市思想及び直木倫太郎の大阪市都市計画事業に関する思想に根ざした視座を持って、資料の解読・分析及び両計画の比較分析に取り組んだ。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

江口 久美, フランスの地区評議会による住民参加型まちづくり, *決断科学*, 第三号 特集 ガバナンス・地域社会・決断科学, 95-104, 2017.03.

河野 康治, 関一の田園都市思想の変遷に関する研究: 高等商業学校教授時代から大阪市助役時代まで, *日本建築学会計画系論文集*, 81(727), 1949-1957, 2016-09.

河野 康治, 「英国住宅政策及都市計画」と大大阪に関する研究, *日本建築学会大会学術講演梗概集. F-1*, 135-136, 2016.08.

江口 久美, グルノーブル市の地区連合に関する研究, *日本建築学会大会学術講演梗概集. F-1*, 641-642, 2016.08.

河野 康治, 大阪市都市計画事業における直木倫太郎の思想に関する研究, *日本建築学会計画系論文集*, 81(726), 1705-1713, 2016-08.

河野 康治, 関一による田園都市思想の受容と理念の形成に関する研究, *日本建築学会大会学術講演梗概集. F-1*, 947-948, 2015.09.

江口 久美, フランスの地区評議会における特別の制度運用に関して—モンペリエ市・モントルイユ市・クレティユ市について—, *日*

本建築学会大会学術講演梗概集. F-1, 169-170, 2015.09.

Kumi Eguchi, Koji Kawano, A Study on the Urban Conservation in the Urban Extension Project in Paris -Idea of Architect Louis Bonnier and Contemporary Grand Paris Project-, *Proceedings of Changing Cities 2*, 1320-1329, 2015.06.

江口 久美, プザンソン市における住民諮問委員会の活動に関する研究—トラムプロジェクトを対象として—, *日本建築学会大会学術講演梗概集. F-1*, 851-852, 2014.09.

Kumi Eguchi, A Study on the Mandatory Area Councils in France: The Circumstances in 47 Communes, *Proceedings of International Planning History Society*, 248-262, 2014.07

江口 久美, フランスの近隣住区評議会の現状に関する研究—人口 8 万人以上の 47 コミュニティに関して—, *日本建築学会近畿支部研究報告集*, 計画系(54), 261-264, 2014.06.

[学会発表](計 12 件)

河野 康治, 「英国住宅政策及都市計画」と大大阪に関する研究, 『日本建築学会大会』, 福岡, 2016.08.

江口 久美, グルノーブル市の地区連合に関する研究, 『日本建築学会大会』, 福岡, 2016.08.

Kumi Eguchi, On the Fluid Democracy of the Pirate Party フランスにおける任意の地区評議会に関する一考察—海賊党の液体民主主義の視点から—, *日文研国際研究集会 Pirates' View of World History toward Possible Re-orientations*, 2016.04.

江口 久美, 文化的景観を巡る一考察, JARC (日本アメニティ研究所) 定例会, 2016.03.

河野 康治, 関一による田園都市思想の受容と理念の形成に関する研究, 『日本建築学会大会』, 神奈川, 2015.09.

江口 久美, フランスの地区評議会における特別の制度運用に関して—モンペリエ市・モントルイユ市・クレティユ市について—, 『日本建築学会大会』, 神奈川, 2015.09.

Kumi Eguchi, Koji Kawano, A Study on the Urban Conservation in the Urban Extension Project in Paris -Idea of Architect Louis Bonnier and Contemporary Grand Paris Project-, *Changing Cities 2*, Porto Heli,

Greece, 2015.06.

Kumi Eguchi, Challenge to autonomy by inhabitants in urban planning by area councils in France, The 2nd Kyoto-Bordeaux Symposium 2015, Kyoto, Japan, 2015.05.

江口 久美, パリの歴史的建造物保全ー都市を見るまなざしの誕生, 日文研共同研究会 21世紀10年代日本の軌道修正, 2015.04.

Kumi Eguchi, Etude sur les conseils de quartier en France : Situation dans 47 communes (フランスに近隣住区評議会に関する研究:47 コミューンにおける状況)(Poster Session), Journée Francophone de la Recherche (日本に住むフランス語を話す研究者の集い 2014), Tokyo, Japan, 2014.11.

Kumi Eguchi, A Study on the Mandatory Area Councils in France: The Circumstances in 47 Communes, International Planning History Society, Saint Augustin, The United States, 2014.07.

江口 久美, フランスの近隣住区評議会の現状に関する研究、人口8万人以上の47 コミューンに関して、平成26年度日本建築学会近畿支部研究発表会, 2014.06.

〔図書〕(計 2件)

江口 久美, 「フランスにおける「任意の地区評議会」ー海賊党の液体民主主義と近年の民主主義のふたつの動向から」, 稲賀繁美編, 『海賊史観からみた世界史の再構築ー交易と情報流通の現在を問い直すー』, 思文閣出版, 505-529, 2017.02.

江口 久美, パリの歴史的建造物保全, 中央公論美術出版, 2015.01.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:

種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者
江口 久美 (EGUCHI, Kumi) (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター・助教)

研究者番号: 30720221

(2)研究分担者
河野 康治 (KAWANO, Koji) (大阪市立大学都市研究プラザ・特別研究員)

研究者番号: 60783488

(3)連携研究者
()

研究者番号:

(4)研究協力者
()